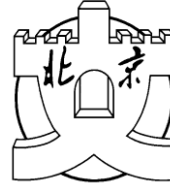


かささぎ



北京日本人学校
学校通信 第10号
平成29年 2月27日
校長 奥田 修也

「知る」ことが「行動」への第一歩

父母会前会長 市川 美由紀

皆様がこの「かささぎ」に目を通す頃、私は久しぶりの阿姨無し生活にどうにか慣れ、暖気のない寒い日本の家で北京を懐かしんでいることでしょうか。夫の帰任により、任期半ばでの退任になってしまったことは本当に残念でしたが、当時の会長から突然電話があった日からの2年弱は、私にとってかけがえのない時間となりました。「繰上りで執行部員になりました。急で申し訳ないけれどもちょうど明日代表委員会があるので出席してもらえませんか？」慌てて予定を全てキャンセル。補欠1番だったので覚悟はしていたものの、父母会室の場所も知らなかった私はひどく緊張して翌日学校へと向かいました。それまでの3年間、父母会活動への参加が可能な家庭環境であったにも関わらず、一切参加することなく過ごしていましたので、「このような形で就任することになったのは天罰だと思っています。」と挨拶したのをよく覚えています。しかし翌年会長になり、その時の挨拶は「以前は天罰だと思っていましたが、今は良い機会を与えてもらったと思って感謝しています。」となりました。

執行部員となった1年目は会計として父母会活動の仕組みや先生方の熱意、ご苦労といったものを学ばせてもらいました。そして会長となった2年目は理事の方々が学校をしっかり支えて下さっていることを知り、ますます頭が下がる思いで活動してまいりました。理事の方々や先生方のことはもちろん保護者全員が承知していることではありますが、いかに支えて頂いているかということを実感できる機会はそう多くないのではないのでしょうか。日本から離れたここ北京の地で、子供達が安全で高水準の日本教育を受けられるということは決して当たり前なことではない、多くの方に支えられてこそ、ということをしっかり心に留めて頂きたいと願わずにはいられません。父母会活動を知り、先生方のご苦労を知り、学校の仕組みを知り、理事会の支えを知れば、保護者として何をすべきか一自ずと答えが見つかるでしょう。

父母会活動においてこの1年間は「変化」の年となりました。「変化」というのは一般的にはマイナスにとられがちです。慣れ親しんだ習慣が無くなることへの不安や寂しさ、未知のものに対する恐怖等の心理が働くので、人は無意識に「変化」を恐れるのだそうです。しかし、「変化」によって新しい風がもたらされるのもまた事実です。この風を捉え、良い追い風にしてしまうことが出来るのであれば「変化」もそう悪いものではないと思います。これから北京日本人学校の父母会活動を担っていく役員委員の方々、そして全ての保護者の方々に期待し、日本から応援させて頂きたいと思います。

最後になりましたが、未熟な私を支えてくださった理事の皆様、奥田校長先生、高橋教頭先生をはじめとする先生方や事務局の皆さん、そして執行部員他役員、クラス委員さん達、ボランティア活動に参加して下さった保護者の皆さん、全ての保護者の方に心より感謝しております。北京日本人学校のますますのご発展と皆様方のご多幸をお祈りし、退任のご挨拶とさせていただきます。



「見つめた一年」

父母会会長 赤埴 桃子

前父母会会長の帰国に伴い、3学期より会長に就任しました。ゼロからのスタートでしたが、色々なお話や資料を見聞きしてゆく中で、どれだけの方が学校生活を支えるため、人知れずそれぞれの貴重な時間を割き、ご尽力下さっているのかを思い知りました。中でも理事会への出席はとても貴重な経験となりました。毎回保護者目線とは全く異なる多方面からの意見交換が真剣になされ、それらはいずれも、「いかにして“子どもたちにとって”よりよい学校にしてゆかか」というものでした。子供たちが朝、「行ってきます」と出発し、「ただいま」

を聞くまでの間、安心して送り出されているのは、このようにたくさんの方々による真剣な取り組みがあるからこそ成り立つものなのだと深く感じました。

2学期までは長女が小学部最高学年ということもあり、卒業アルバム制作を主にしていました。現時点で既に印刷と納品を待つのみとなりましたが、右も左も分からない中ここまでたどり着けたのも、卒業アルバムに関わって下さった全ての方々のおかげだと感謝しております。写真を通して子どもたちの一年間を見つめてきましたが、彼らのエネルギーは写真を超えてそのままを私たちに伝わってきました。運動会や修学旅行の頃には更に絆も深まったのか、こちらが圧倒されてしまうほどの感動を写真の中に残してくれました。私は卒業アルバムが子どもたちにとって、この先ふと心細くなったときに、「この時の仲間たちが、今も世界のどこかで自分と同じようにがんばっているんだ」と、少しだけ心強くなれるような、そんな存在になってくれればいいなと思っています。

卒業アルバムの話をしましたが、卒業生に限らず、どの子どもたちも同じだと思います。そんなキラキラして、大いなるエネルギーを秘めた子どもたちの健やかな学校生活をご支援下さる関係者のみなさま、いつも本当にありがとうございます。この場をお借りして感謝申し上げます。子どもたちの尊い未来のために、私にもできる事を少しずつ積み重ねてゆけたらと思います。3学期のみの短い在任となりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。



2分の1成人式を終えて

小学部4年

4年生は、保護者・日本人参観の日に「二分の1成人式」を行いました。子どもたち一人一人が、自分の将来の夢や親への感謝の気持ちを発表しました。多くの方に参観していただいたので、子どもたちはとても緊張したようですがそれぞれが練習の成果を発揮し、「自分らしさ」の伝わる発表ができたと思います。



家族からの手紙を読んだ後、みんなで「ひまわりの約束」を合唱しました。今年度は各教室で実施しましたが、みんなで教室を飾り付けてあたたかい雰囲気の中で開催することができたように思います。



10歳というこの時期は、まだまだ家族の手助けが必要です。しかし、今日の日を新たなスタートにして、それぞれの歩幅で一歩一歩成長して行ってほしいと思います。

書写作品展

学習部

2月6日（月）から2月17日（金）まで書写作品展を行いました。小学部低学年は硬筆作品、小学部中学年以上は毛筆作品を、冬休み前から練習しました。三学期に入り、小学生は書写の授業で、中学生は年明けの席書き会で仕上げました。作品の題材は、それぞれの学年に合わせた言葉が選ばれています。子どもたちは、しっかりと練習してきた成果を発揮し、とても見応えのある文字を書くことができました。席書きの際の、中学生の集中力も素晴らしかったです。その中でも優秀な作品は、優秀賞として先日の歓送迎式の際に表彰しました。今年度から、優秀賞には分かりやすいように印をつけて掲示したところ、子どもたちは休み時間や昼休みに互いの作品を鑑賞し、来年度の書写作品展に向けての意欲を高めているようでした。

